【学校通信】

平成28年3月10日

第22号

西中の風

西中の風

伊丹市立西中校長

大西　規之

ご卒業おめでとうございます

３月１１日（金）に第６７回卒業証書授与式が挙行されます。１９５名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。それぞれの胸には、様々な思い出が一杯だと思います。楽しかったこと、つらかったこと、一杯あったと思いますが、それも今はよき思い出です。３年生の皆さんはいつまでも伊丹市立西中学校の卒業生です。素晴らしい夢と希望を持って卒業してください。また、卒業後も西中学校を尋ねてきてください。ご多幸を祈念しております。

さて、以前講演会で聞いたお話を紹介します。

『「あなたはお母さんの肩をたたいてあげたことはありますか」これはある会社の入社面接試験での質問です。これには、ほぼすべての学生さんが「はい」と答えるのだそうです。みなさんはどうでしょうか。実は、私も小学生の頃、小遣い欲しさに、たたいたことを思い出します。では、次の質問。「あなたは、お母さんの足を洗ってあげたことがありますか」。これには、ほぼすべての学生さんが、「いいえ」と下を向いて答えるそうです。実はこの会社、社長さんの意向で、後者の質問で「いいえ」の人は、後の試験の成績がどんなに良くても不合格なのだそうです。

しかし、この社長さん、必ず助け船を出されます。「では、二日間だけお時間を差し上げましょう。お母さんの足を洗って、三日後の今日と同じ時間に、又ここで感想を聞かせてください」。つまり、明日と明後日の二日間の間に母親の足を洗えば合格、できなければ不合格というわけです。

この後の、ある学生さんの後日談からです。この学生さん、翌朝お母さんの顔を見るなり、「足を洗わせてほしい」と願い出るのですが、お母さんも突然のことで、照れくさいやら恥ずかしいやら、なかなか「うん」とは言ってくれません。この日は一日中お母さんの後をついて回ったのですが、洗わせてもらえませんでした。その翌日も夕方になって、息子のあまりのしつこさにお母さんが根負けされ、「そんなに言うなら、おまえの好きにしたらええ」と。

彼は、やったとばかりお母さんを浴室に連れて行き、腰掛けに座ってもらい、さあ、洗ってあげようとその足を手に取ったのです。初めてさわった母の足裏は、いぼやらたこで、とてもごつごつしていたそうです。その感触に、「お母さん、苦労しとるんやな」と思ったそうです。それからタオルに石けんをつけて、さあ洗ってあげようと足の甲（表）を見てみると、あかぎれでしょうか、一面白くひび割れていました。その腫れ上がったような、がっしりした足首を見ながら洗い出したのですが、洗っているうちに、自分が小さい頃からお母さんにかけた苦労の一つひとつが、まるで走馬燈のように次から次へと思い出されたのです。

小学校の頃、門限を破って帰宅し、父に叱られて閉め出されようとした時、母が間に入って土下座して謝ってくれ、やっと許されたこと。父に好きなテレビ番組を消され、渋々二階で勉強していた時、お母さんが夜食をもって、「今日はもう疲れたやろ。これ食べて早よ寝。お父さんに勉強してると言うといたるから」と気遣ってもらったこと。大好きだった象さんを見に、休日も仕事で忙しいお父さんに代わって、よく、弟といっしょに動物園に連れて行ってくれたこと。小学校の父親参観にも、よく父に代わって出席してくれたあの光景。中学、高校とずっとお弁当を作ってくれたお母さん。クラブの早朝練習で、冬は暗いうちから登校していたのに、家を出るときには温かいお弁当ができていたけど、一体何時に起きて作ってくれていたんだろう。小学校２年生の時、麻疹（はしか）でうんうん言いながらしんどかった一週間、「だいじょうぶか、しんどいか」と付きっきりで看病してくれたのも母でした。

次から次へとお母さんによくしてもらったことが思い出され、だんだんと目の前が曇ってきて、お母さんの足がかすんでよく見えなかったそうです。それでも、続けて洗っていると、洗っている彼の手の甲に、ぽたりぽたりと落ちるものがあったそうです。お母さんも泣いておられたのです。後に、「あの子を育てて２０年。時には言うことを聞かず、反抗し、つらくしんどい時も多かったように思います。しかし、一生懸命私の足を洗ってくれている息子の姿を見て、その苦労もいっぺんに吹き飛び、よくここまで立派になってくれたと、うれしくて仕方がありませんでした」と語っておられたそうです。

夜、床についてもいろいろなことが思い出され、「お母さんありがとう」と心の中で繰り返していたそうです。

翌日、いよいよ再面接の日です。着慣れない背広に腕を通して、出かけていくと、三日前と同じように中央には社長さんが座っておられました。「どうでしたか」という質問に、彼は次のように答えたそうです。「社長さん、今回私はたいへんいい勉強をさせていただきました。人間にとって一番大切なことは、感謝の気持ちを持つことです。私がここまで来られたのは、母をはじめ、たくさんの人のお陰です。私一人の力では、決してなかったということに、初めて気づきました。これからは、母はもちろん、今までお世話になった人にご恩返しできる人間になりたいと思います。こんな大切なことを教えていただいて、この会社、もし不合格になっても悔いはありません。ありがとうございました」こう言って彼は退席したそうです。

それを聞いて社長さん、「彼は今回、たいへん大切なことを学ばれたようです。私は、感謝の心、そしてご恩をご恩として感じる心を養われた彼のような学生さんに、私の会社で働いてほしいと思っています。今すぐ合格の通知を出してあげてください」と横の秘書の方に言われたそうです』　以上

義務教育を終える３年生の皆さん、これまでたくさんの方にお世話になったと思います。お世話になった方に感謝をこめて卒業していってください。そして、「ありがとう」と言ってください。お願いします。